

第27回企画展 「縄文時代後期の山形」

令和元年9月14日（土）～12月1日（日）

第27回企画展は、近年、資料が充実してきた県内の縄文時代後期に焦点を当てることといたしました。遺跡数も多く、竪穴住居の数では他の時期を圧倒する縄文時代中期末葉から一変し、後期に入ると遺跡数も減少し、集落の規模も縮小します。竪穴住居も小形で形も定まらないものが多く、集落の中に集石や配石を伴う墓も出現します。また、漆工技術も発達し、さまざまな漆製品も目立ってきます。特定地域にしか産出しないものも出土し、この時期は地域間交流が活発であったことを窺わせます。

東日本各地の影響を受けた土器が出土する後期初頭から前半、地域的に相違があるものの東日本に大きな文化圏を形成する後期中葉、それから東北では瘤が付く土器が目立つ後期後葉と土器が変遷します。今回の企画展では、この時代の人々の暮らしぶりを、発掘調査の成果や出土品から考えます。

今回の展示に際し、米沢市教育委員会、酒田市教育委員会、長井市教育委員会、高畠町教育委員会、遊佐町教育委員会、山形県立博物館、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターから貴重な資料をお借りしました。また、ご協力とご配慮を賜りました関係各位に厚く感謝申し上げます。



エントランス



第1章 後期前葉の住居と土器



第1章 後期前葉～中葉の住居と土器



第1章 後期中葉の土器



第1章 後期中葉の住居と土器



第1章 後期後葉の住居と土器



第2章 後期の食料事情



第2章 後期の食料事情



第3章 後期の物流と交流 第4章 装飾と祈り



第4章 装飾と祈り



第4章 装飾と祈り